

【別紙】

本実証走行におけるアークノハラ安全補完装置について

1. 自動運転バスの走行ルートと安全補完装置の設置箇所マップ



2. 安全補完装置の紹介

設置目的：道路側の環境整備による安全補完

① 「自動運転バスだけに反応し開閉する ICT ゲート (ICT ゲート)」

製品概要	車両の侵入を物理的に制御できるゲートに、インターネットを通じてゲートの開閉を制御できる機能を付加した道路側の安全対策施設。ソーラーバッテリー回路で動作。
設置場所	SKIP シティの南入り口付近（敷地内）に 2 基設置。
設置目的	自動運転バス停留所内への関係車両外の進入防止を行い、自動運転バスのスムーズな運行を目指す。

② 「周辺交通に注意喚起を行う ICT LED 電光掲示板 (ICT LED 電光掲示板)」

製品概要	ゲートと同様に、インターネットを用いて自動運転バスが設定箇所の走行時のみ点灯する機能を付加した電光掲示板。ソーラーバッテリー回路で動作。
設置場所	A:信号機のない交差点に 1 基、B:山なりの SKIP 橋に 1 基設置。
設置目的	A:自動運転バスの接近表示を周辺車両に向かって出すことで、注意喚起をする。 B:先の見えない橋の向こうを少し低速で自動運転バスが走っていることを後続車両に知らせ、注意喚起をする。




③ 「押しボタン信号連携 LED 電光掲示板 (ICT LED 電光掲示板)」

製品概要	自動運転車接近時に信号ボタンを押すと赤が延長されます。LED 電光掲示板は、この状況を歩行者に知らせる為に設置します。本装置は信号機情報と連動し動作します。
設置場所	横断歩道 2 箇所に設置。
設置目的	自動運転バスが走行していることを歩行者に知らせ、注意喚起をする。

川口市立科学館での特別展示 | 「自動運転のしくみ」にパネル展示

自動運転バスの実証走行に併せて、SKIP シティ内の川口市立科学館にて「自動運転のしくみ展」が1月23日から2月28日まで開催されました。その中で私たちは、自動運転社会の安全・安心のためのパネルを展示や映像モニターを設置しました。

特別展「自動運転のしくみ」開催概要

テーマ	自動運転ってなに？自動運転の技術の紹介やPM（パーソナルモビリティ）走行の体験から未来型都市交通について考えてみよう。
開催期間	2021年1月23日（土）～2月28日（日） 開催期間30日間
開催場所	埼玉県川口市立科学館
当社展示物	<ul style="list-style-type: none">・動画：2020年度実施「川口市における自動運転バス実証走行」・動画：「標識の製造工程」・パネル展示、クイズ・道路標識の現物展示   

川口市の取り組みについて

川口市は、内閣府が公募した「近未来技術等社会実装事業」（現「未来技術社会実装事業」）に「先端技術体験がもたらす地域振興と人材育成および公共交通不便地域の解消」をテーマにした取り組みを応募し、2018年に事業採択されています。この取り組みの一環として、鉄道の駅から離れた場所に位置する「SKIPシティ」と埼玉高速鉄道鳩ヶ谷駅間で、2020年2月に4日間にわたり、自動運転バスの実証実験を実施しました。2021年2月から実施した今回の実証走行では、ドライバーによる介入操作を必要としない自動運転バスの実用化を目指して、より高度な技術検証に取り組みました。期間を約1カ月程度設けて一般の方々にも試乗していただく予定でしたが、新型コロナウイルス感染拡大の緊急事態宣言が発出されたことを受け、コロナ感染防止対策を徹底のうえ関係者試乗に限定して実施しました。

また、今回の実証走行と併せて、端末交通の利便性向上に向けた取り組みとして、日本工業大学の協力により、利用者による呼び出しに応じて自動走行するパーソナルモビリティの実証走行を「SKIPシティ」の敷地内で行いました。このパーソナルモビリティは、自宅とバス停間等の「ラストワンマイル」における利用を想定した、スムーズな移動を実現するための交通手段で、川口市は自動運転バスとパーソナルモビリティを組み合わせることで、移動がより便利になるまちづくりを目指しています。

作成：株式会社アークノハラ